

令和3年度 第1学期始業式

松山北高校に赴任して改めて感じたことは、松山城の周辺に位置する近隣の学校の中で、最も近くでお城を仰ぎ見ながら、学校生活に励むことができる素晴らしい環境の学校だということです。

松山北高校に勤務することを知ってから、皆さんの先輩たちである松山北高校の卒業生の方々や、家族に松山北高校を卒業したという方々、また、子供さんやそのいとこが生徒として通学しているなど、本校にゆかりある多くの方々に声をかけていただきました。声をかけていただくすべての方々に共通するのは、松山北高校に対する愛校心や想いの強さが満ち溢れていたことです。

松山北高校の魅力は、120年を超える歴史ある伝統を築いてきた中で、様々な分野で活躍するリーダーを数多く輩出していることであり、その輝かしい功績はもとより、過去の実績だけではなく、在校生である皆さんが様々な分野で活躍する姿に、多くの中学生が魅力を感じ、進学したい学校として高い支持をしているのだと思います。本校は生徒である皆さん自身が「宝物」であると確信しています。

今日は、新しい学年のスタートとなる節目の日です。そのスタートにあたって、皆さんは、この1年「どんな成長をしたいか」という目標を自分なりに掲げて、1年後の自分をイメージし、実現するためには半年後、3ヶ月後の自分自身はどのように成長しておかなければならないか、を想像してください。そのうえで、1ヶ月後、1週間後はどうあるべきでしょうか。より近い未来の生活がイメージできれば、今から何をすべきか、自ずとわかるのではないのでしょうか。

先日、皆さんもよく知っている競泳の池江璃花子さんが大きな病気を乗り越えて東京2020オリンピックの代表に内定したことは皆さんもよく知っていると思います。他人では理解できないほどの努力を重ねてきた池江選手は、逆境から這い上がっていくときには、どうしても希望という力が必要だということを述べていました。希望という光が遠くに輝いているからこそ、どんなに辛くても前を向いて頑張れる、と語っています。トップを極めているように見え、「天才」と呼ばれる池江選手にであっても前を向くことができる何かを模索しながら努力しています。多くのトップアスリートが自らを天才であることを否定し、誰よりも練習し、努力したと語っています。「才能は有限、努力は無限」、「夢叶うまで挑戦」、「努力には夢がある」、どの言葉も主体的に行動するための言葉です。努力することは、人からやらされて行動する強制によるものではありません。どうか皆さんも自分の意志で行動を起こしてください。

本校の努力目標には、「一朵の雲を目指して」と掲げられています。高くて大きな目標を掲げてもらいたいと思いますが、低い山の頂上に登って一つの雲をつかんで、向こうに見えるもっと高い山へ登るには、一度山を下りてまた登り直さないといけません。目標を一つ達成したら、次の目標に向かう、こつこつ努力を繰り返しながら、さらなる高みを目指して挑戦し続けてもらいたいと願っています。

そして、目標に向かうときには、失敗を恐れず、その失敗を己の糧にして、自分の意志で前に進んでもらいたいと思います。

松山北高校の皆さんがこの1年間、先生方がいい意味で大きく裏切られるほどの大いなる成長、飛躍できることを願うとともに、皆さんの躍動感溢れる行動力に期待して1学期の式辞とします。

令和3年4月8日（木）

松山北高等学校長 友澤義弘